

平成26年度第1回山梨県スポーツ推進審議会  
会議録

1 日時 平成26年8月25日(月) 13時30分～15時00分

2 場所 山梨県庁防災新館 4階 412会議室

3 出席者

(1) 委員 9名

飯田 忠子、岡部 和子、加藤 すみゑ、炭田 久美子、田草川 光男、辻 知恵、土屋 直、  
中村 実、藤本 智文

(2) 教育委員会事務局

スポーツ健康課長、総括課長補佐、主幹、担当職員7名

4 傍聴者等の数 なし

5 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

(4) 閉会

6 議題

[ 審議事項 ]

(1) 県体育協会等からの要望書について

(2) 視察施設概要について

(3) スポーツ施設の整備について

[ 報告事項 ]

(4) 平成26年度全国高等学校総合体育大会の結果報告について

7 議事の概要

(1) 県体育協会等からの要望書について

(2) 視察施設概要について

(3) スポーツ施設の整備について

以上をまとめて、審議する。

(事務局)

県体育協会等からの要望書について、視察施設概要について、スポーツ施設の整備について、資料1～5に基づき、説明。

(委員)

東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴って練習会場の施設については、国が相当予算化したとする報道があったと思うが、補助金はどうなるのか。

(事務局)

スポーツ施設については、地方の事前合宿のためにお金を廻す事にはならないと思っている。ただ、本県で施設整備を行っていくためには、補助金は欠かせないので、今後、国へ財源確保に向けて、努力したいと考えている。

(委員)

山梨県でやるとすると、建設場所の問題がある。早めに手に入れないと土地の確保が困難になるのではないか。

50メートルプールや陸上競技場の整備、体育館への空調設備の整備など、挙がっているが、オリンピックまで6年ということになれば、どのように整備していくのか、教育委員会サイドでということではなく、都市整備のような補助金を当てにしているのならば、県全体で考えていかなければ、進まないと思う。

要望事項は全部やってもらいたい、と思うが、どうしてもやらなければならないものと、補完整備(新たな機能の追加・最新型)に分けて、議論したい。

方向性の中で、県が示しているように、ただ県だけ、国だけが整備するのではなく、地域でも予算を盛って県と市町村が連携した施設整備を重要視して、考えていくべきだと思う。

県全体の競技のレベルアップをしていく施設は県で整備する。

集中と選択を行う必要もある。

本県の特徴有る温泉利用をしながら施設を造っていく、とか、ひとつにまとめた施設も良いのではないか。大きなビジョンを据えて、アスリートも市民も使える施設とすべき。

オリンピック・パラリンピックと同様に市民スポーツのレベルも見ながら、スポーツの振興も進めてもらいたい。

関東ブロックでU12のオーディションを山梨県で行うことになった。ここで選抜されたものが東京オリンピックを目指すことになる。8年前もオリンピックの関係でやらせてもらった。そのときには、高根町の体育館で行った。それは、涼しいということで納得してもらった。今回も1年前には、小瀬にも冷房があるということで納得してもらった。小瀬が空いていればできるが、空いていなければ絶対やらないといわれている。

総合球技場の建設は百億円という、すごいお金がかかるのであるから、もしできるのであれば、いまある施設を競技とをうまく連携して使えるように改修したりして、予算を取って、場所をとってもっと大きい大会を誘致できものにしてほしい。いくつも手を掛けるのではなく、ひとつ大きなものを整備してほしい。

アリーナに3面4面のコートがあるのは当たり前で、山梨県にはそのような施設がないので、日本リーグからクレームがある。冷房もあって、観客席には土足のまま入れる。山梨県の場合、人口も少ないし、財政的にも制約があって大変なことも分かる。

かいじ国体の資産をそのまま、利用している状況。東京オリパラの事前誘致を踏まえて、要望がどれくらい叶えられるか。あれもこれもといっても現状は無理だと思う。何かイベントのあるときに、

ことをすすめないといけないのではないか。

東京オリンピックがあっても、山梨県では何もできなかったということにならないように、ターゲットを絞って、どれができて、どれができないのか検討すべき。

スポーツ施設を造っていくためには、県域のスポーツ施設と市町村域の施設が適度に散らばっているか、調査する必要がある。

県全体の基本政策の中に入れ込み、他部局の協力を得ることが必要。

「健康で」長寿の社会を造っていくためには、スポーツの振興やスポーツ施設の整備が必要というニュアンスを整備の考え方に入れていくことが大事。

多競技ができる施設を手がけていくことが一番いいのではないかと、思う。

小瀬でトップリーグを迎える立場で関わっているが、控え室とかが、本当はない。お粗末。シャワールームもない。1チームに更衣室、会議室、シャワールームが備わっているのが、いまでは普通。

かいじ国体とは、環境が変わってきている。温暖化など気温も変わっている。

世界大会を開催したいということも分かるが、県の規模から考えるとちょっと無理。そこを優先順位を考えながら、要望を達成していったらいいと考える。

教育委員会だけでできない場合は、観光などの事業も融合させながら、財源を確保するなど横断的な取組が必要。

(事務局)

貴重な意見ありがとうございました。いくつかでてきた、キーワード、「市町村との役割分担」「少ない予算をどう使うか」「効率化」「集約化」は、考え方の大事なベースになるので、気をつけながら進めていきたい。

審議会からの意見を頂いたので、3月に庁内検討委員会を立ち上げた。こちらで平行して作業を進めている。スポーツ健康課だけでなく、都市計画課とは何度も検討する中で、国の予算については国の予算も増えていないので、地方には難しいようだ、など検討している。そのほかにも企画課、射撃場の関係のみどり自然課などとも一緒に話をすすめている。

我々がすすめているのは、山梨のスポーツ振興である。本県にとって必要な施設に何があってもオリンピックを契機に早いタイミングでできるのであれば、整備を進める流れに乗っていきたくて考えている。

審議会でも出された意見は、検討委員会の中で検討しながら、方向性を出す3月末に向けて作業を進めていきたいと考えているし、途中経過については、その都度、委員の皆様にもご報告、ご相談していきたい。

(4) 平成26年度全国高等学校総合体育大会の結果報告について

(事務局)

平成26年度全国高等学校総合体育大会の結果報告について、資料6に基づき報告。

(以上)